

# いわき 農林水産 ニュース

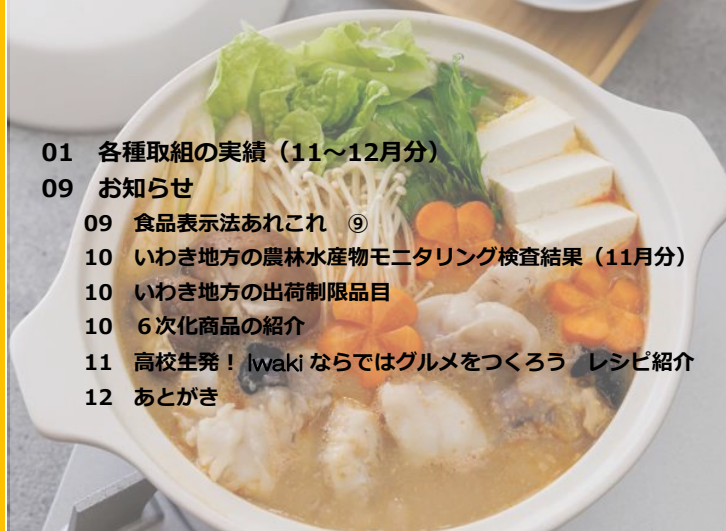
ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和7年 12月号

Vol.250

発行日

2025/12/25



01 各種取組の実績（11～12月分）

09 お知らせ

09 食品表示法あれこれ ⑨

10 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（11月分）

10 いわき地方の出荷制限品目

10 6次化商品の紹介

11 高校生発！Iwaki ならではのグルメをつくろう レシピ紹介

12 あとがき

## 第2回いわき地域新農業人レベルアップ塾

12月5日（金）

当所農業振興普及部主催で、第2回いわき地域新農業人レベルアップ塾を開催したところ、関係者含め17名の参加がありました。

今回は、福島県農業会議担い手・経営対策部の鈴木正洋部長に、「農業者年金について」というテーマで、農業者年金の概要やメリット、他の各種制度との違いなどについてお話いただきました。

また、当所職員からは、安全な農作物を生産するために必要な「農薬の使い方」について説明しました。

参加者からは、「農業者年金の手続きや加入条件など、これから就農するにあたり経営面で参考になった」、「農薬の基本的なことや、注意点などをあらためて確認出来た」との感想がありました。

今年度は、あと2回開催を予定していますので、就農希望者、新規就農者、農業経営を改善したい農業者はぜひご参加ください。

<第3回> 日時：令和8年1月30日（金）13：30～15：30

場所：いわき合同庁舎4階大会議室

内容：雇用のやり方、求人方法、気をつけること等、労働力確保に関すること

<第4回> 日時：令和8年3月12日（木）13：00～15：30

場所：いわき合同庁舎西庁舎2階会議室

内容：経営改善手法としてのGAPや簿記等の取組について

参加申し込みは、農業振興普及部（電話0246-24-6162）までご連絡ください。

（農業振興普及部）



▲鈴木正洋部長の講演



▲出席者から活発な質問



## 新たに鈴木信男さんが、ふくしま県GAPを取得

11月12日(水)

江畑町で米を生産している鈴木信男さんが、このたび、ふくしま県GAP (FGAP) を取得しました。11月12日(水)には、いわき農林事務所 上野所長より鈴木さんに認証書と、FGAP認証マークが印字されたのぼり等が手渡されました。

鈴木さんは、「安心できる米を提供するために、生産工程・管理をしっかりとするとともに、生産性の向上に結びつけたい。」という目的のもと、FGAPを取得したとのこと。FGAP取得後は、福島県のブランド米である「福、笑い」を生産していくそうです。



▲ふくしま県GAPを取得された鈴木信男氏(右)

当所では引き続き、食品の安全性向上や、農業経営の改善などに向け、GAPの取得・継続を支援してまいります。

(農業振興普及部)

## 県内最大級の就農相談会の開催

11月30日(日)

「ふくしま農業人フェアinいわき」をいわき産業創造館(L A T O V 6階)で開催しました。会場には、県や市町村、J A、農業団体、農業法人、県認定研修機関等が自営独立就農や雇用就農に向けた相談ブースを設けるとともに、先輩農業者から直接話を聞けるブースを設営し、様々な就農相談に対応しました。

今回は、県内外から48名の相談者が来場し、退職後に農業を生業として雇用就農を目指す方や果樹で第三者継承を希望する方等の相談者に対して、いわきの気候に適する農作物の紹介、農地の確保、補助事業等の支援策、技術習得に向けた研修機関先を紹介しました。

当所では、農業に興味がある方、本格的に独立就農を目指している方、農業法人への雇用就農を検討している方等が安心して就農できるよう、引き続き関係機関・団体と連携した伴走支援を行ってまいります。

いわき地方での就農を検討している方は、当所農業振興普及部(0246-24-6162)へご相談ください!

(農業振興普及部)



▲看板



▲県総合窓口ブースで相談を受けている様子





## 梨生産者に向けたスマート農業機械実演会

11月21日(金)

梨栽培におけるスマート農業による軽労化や省力化を図ることを目的に、いわき市平上平窪の梨園で、いわき梨生産部会を対象にスマート農業機械実演会を開催しました。

今回は、初の試みでロボット草刈り機と非動力系アシストスーツの実演を行い、生産者及び関係者含め25名が参加しました。参加者は、ロボット草刈り機について、通常日中行う草刈り作業をロボットが夜に自動で稼働することや、雨でも走行できること、常に雑草の高さが低く維持されること等、作業性向上の面でメリットがあることを知ることができました。一方で、機械導入とシステム設置費用が100万円程度かかることから、導入コストが課題との意見が出されました。

今後は補助事業等の活用も含めてスマート農業の導入推進を図ってまいります。

(農業振興普及部)



▲メーカーの話を聞く生産者



▲実演中のロボット草刈り機

## いわき長ネギ選果調製施設の操業が開始！

11月21日(金)

福島さくら農業協同組合いわき長ネギ選果調製施設の操業開始式が執り行われました。いわき長ネギ選果調製施設は、生産者の高齢化や担い手不足、選果調製作業の負担といった課題を解消し、産地を維持することを目的に新しく建てられました。

今年は、7月以降の高温少雨の影響で生育が停滞し、出荷がそろうのは遅れ気味ですが、白根がまっすぐで甘い長ネギに仕上がっています。いわき地方ではネギが周年栽培されていますが、中でも11月～3月の秋冬ネギが販売量の9割を占めており、「いわき長ネギ」として市場に出荷されています。

鍋の具材として、焼きネギとして、様々な料理で「いわき長ネギ」をご堪能ください。

(農業振興普及部)



▲操業開始式でのテープカット



▲選果調製施設の稼働デモ



## 農家の声が聞ける！農業相談バスツアー（inいわき） 11月15日（土）

いわき地方で就農を考えている首都圏在住の方向けに、日帰りの「農業相談バスツアー」を開催しました。ツアーには、近い将来いわき地方に移住し就農を考えている首都圏在住の3名と、地元出身の3名が参加しました。

最初に、親バカトマトや水稻を生産する農事組合法人 菊田の郷 助川農園で、トマトの栽培方法やトラクター、コンバイン等の農業機械の説明を受けた後に、農産物直売所「そのふぁ」で関係機関との交流会を行いました。

参加された方々からは、「どういった就農支援があるのか」、「体験を通じて農業の大変さを知った」など、様々な質問や感想があり、参加者にとって大変貴重な体験となったようでした。

当所では、今後も移住就農に向けた支援に取り組んでまいります。

（農業振興普及部）



▲助川氏の説明を聞く参加者



▲交流会の様子

## いわき市立御厩小学校で花の寄せ植え体験

12月11日（木）

いわき地方フラワーネットワークでは、花や緑に親しむ機会を通して優しさや美しさを感じる気持ちを育むとともに、県産花きの理解醸成を図る教育活動（花育：はないく）に取り組んでいます。今回は、いわき市立御厩小学校の5年生41名を対象に、いわき市産花きを使用した寄せ植え体験を開催しました。

はじめに、福島県やいわき市内で栽培されている花きを紹介し、身近な場所で花が作られていることを知ってもらいました。

その後、有限会社磐植の指導の下、寄せ植え体験を行いました。児童たちはみな寄せ植えをするのが初めてで、自分なりにきれいに見えるように配置を考えたりするなど、目を輝かせて取り組んでいました。児童たちからは、「楽しかった」「またやってみたい」「母の日に花を買ってみたい」等の声があり、好評でした。

当所では、花きの生産のみならず、花育を通して消費拡大についても支援してまいります。

（農業振興普及部）



▲県産花きの説明を聞く児童たち





## いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議

11月11日（火）

福島県いわき合同庁舎において、「令和7年度いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました。会議では、構成員であるJA福島さくらいわき統括センター、福島県農業共済組合、いわき市とともに、鳥獣による農作物の被害や捕獲状況、鳥獣被害対策のモデル集落の取組などについて報告し、今後の推進方針について協議しました。

いわき市内では、農作物の被害状況としてはイノシシによるものが多いことから、イノシシを中心とした対策に取り組むことが重要です。また、最近では県内各地でクマの出没が増加していることから、クマ対策についても協議しました。当所といたしましては、引き続き関係機関と連携して有害鳥獣被害防止対策に努めてまいります。

（農業振興普及部）



▲いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議の様子

## いわき地方特定家畜伝染病防疫演習

11月26日（水）

特定家畜伝染病対策いわき地方本部（いわき農林事務所）は、遠野町内において高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した防疫演習を開催しました。

本病が発生の際は、迅速かつ的確な防疫措置と感染防止対策が急務となります。午前の埋却演習には、埋却班担当（県及び市職員）及び県建設業協会や養鶏農家の48名が参加。バックホーによる埋却地の掘削後、防護服等を装備した防疫作業員は、消石灰散布やブルーシート敷設、フレコンバッグ埋設まで、一連の防疫措置作業を体験しました。

午後の消毒ポイント演習には、消毒ポイント班担当職員（県及び市職員）の41名が参加。ウイルス拡散防止のため制限区域に設置する消毒ポイント設営や車両の誘導、動力噴霧器の使い方について受講後、3名1組となり車両の引込み・徐行誘導、車両等の消毒、車両消毒証明書発行など、一連の業務を確認しました。

（農業振興普及部）



▲埋却演習の様子



## 林道「永井川前線」が全線開通

10月27日（月）

いわき市三和町下永井地区と川前町川前地区を結ぶ永井川前線は、いわき市の北西部に位置する林道です。森林整備の促進・山村地域の振興・定住環境の改善等を目的として、平成16年度に事業採択（県営事業）となり、延長7,348m、車道幅員4.0～5.0mの1車線林道として、平成17年度から工事を実施してきました。台風で法面の一部が崩落するなど、これまで多くの困難に見舞われながらも着実に工事を進めてきた結果、着工から21年目となる令和7年10月27日に工事が完了して全線開通しました。

今後は、当該地域における適正かつ計画的な森林管理や木材輸送の効率化による林業振興だけでなく、災害時の迂回路としても機能し、地域振興や安全・安心な生活環境の改善に貢献するものと考えています。

工事の実施にあたっては、長年にわたり地域の行政区や土地所有者のみなさまに多大なるご理解とご協力を頂きました。また、施工業者の安全かつ良質な施工により、労働災害もなく無事工事を終えることが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

（森林林業部）



▲永井川前線終点とJR磐越東線



▲完成写真（全線舗装道路）

## 木とのふれあい創出事業「出前講座」

11月4日（火）、6日（木）

11月4日に小名浜東小学校の3年生及び4年生を、11月6日には高坂小学校3年生を対象に、木とのふれあい創出事業における「出前講座」を開催しました。

これは、福島県森林環境税を活用した事業で、木工工作指導等を通じ、木材と私たちの生活の繋がりについての関心を深めてもらうことを目的に行っており、今年度はいわき市内の小学校7校での実施を計画しています。

小名浜東小学校では、講師に迎えた田人林業研究会の緑川平隆さんが、3年生には金づち、4年生にはノコギリの使い方についての指導を行った後、児童は木材を使って思い思いの作品を制作しました。

また高坂小学校では、当事務所の職員が講師を務め、森林に生育する木の話や金づちの使い方の指導を行った後、児童は作品制作に取り組みました。

児童は普段使わない道具に最初のうちは悪戦苦闘していましたが、コツをつかむとスムーズに作業を進められるようになりました。

このような講座が木材に関心を持つきっかけとなるよう、引き続き取組を進めてまいります。

（森林林業部）



▲講師の緑川さん



▲小名浜東小での授業の様子



▲高坂小での授業の様子

## ほ場整備における先進技術導入研修会

11月13日(木)

農地中間管理機構関連基盤整備事業瀬戸地区において、当所の主催で、ほ場整備における先進技術導入研修会を開催しました。

瀬戸地区は、令和6年に採択され、ほ場整備の実施により担い手への農地集積をするとともに、高収益作物の導入による農業経営の持続的な安定性の確保を目指しています。

このような中、地域の担い手農家から、更なる営農効率の向上と労力軽減が求められており、その手法としてスマート農業の取組が進められています。



▲当所職員から説明をしている様子



▲暗渠排水路

瀬戸地区では、スマート農業の導入に向け地域との検討を重ね、ほ場整備工事の中で排水路の暗渠化やターン農道を試験的な取組として進めており、維持管理の負担軽減などの状況を今回、県内の県機関、市村や研究機関等のほ場整備関係者約50名に対して説明を行いました。

スマート農業は、現地に合わせた工夫が必要であり、担い手農家との合意も不可欠です。本取組が県内の参考となるよう、引き続き地元の声を聴きながら工事を進めてまいります。

(農村整備部)

## 小川江筋を学ぶバスツアー

11月13日(木)

みどり  
水土里を育む普及促進事業を活用したいわき市立平第六小学校の「小川江筋を学ぶバスツアー」が行われました。

このツアーでは、農業水利施設の役割と維持管理の大切さや農地の多面的機能を理解することを目的として、小川江筋最上流の夏井川から取水する小川江筋源門(取水堰)から小川江筋終点までを巡りました。

参加者は4年生30名で、磐城小川江筋土地改良区職員から小川江筋の歴史、大雨による災害時の状況、頭首工、サイフォン、水門等の農業水利施設の説明や操作体験により、各施設の機能や維持管理の大切さ、維持するための苦労などを学びました。

さらに、小川江筋の受益地末端近くにある大浦カントリーエレベーターでJA職員から説明を受け、施設の役割や米の収穫から精米までを学びました。

参加した児童は、初めて見る施設に興味津々で、多くの児童が積極的に水門の操作を体験し、「施設の大切さがわかった」「小川江筋や水田について洪水防止などいろいろな働きがあることがわかった」など施設の大切さを感じていたようでした。

今後も小学校や土地改良区と連携して、農業用施設の理解促進の活動を支援してまいります。

(農村整備部)



▲小川江筋源門



▲平中塩水門





## 多面的機能支払交付金いわき方部研修会

11月21日（金）

いわき市文化センターにおいて、当所主催の令和7年度多面的機能支払交付金いわき方部研修会を開催しました。

多面的機能支払交付金は、地域の農地維持、草刈りや景観形成等の共同活動を支援していますが、全国的な高齢化や人口減少により人手不足が進み、活動の継続を断念する組織も出ており、いわき管内においても同様に課題となっています。そのため、今回の研修会では、今後も活動を継続するための地域間で人の関わりを深め協力していただく関係人口創出の取組を紹介するとともに、活動における注意点について説明を行いました。

また、近年頻発している集中豪雨の被害を軽減する取組である「田んぼダム」の説明を行い、今年度いわき管内で現地実証を行っている戸田環境保全会から具体的な取組状況について説明がありました。

当所では、今後も様々な情報提供を行うことで、多面的機能支払等を活用した持続的な営農、農村地域の活性化に向けた取組の支援を行ってまいります。

（農村整備部）



▲研修会の様子

## 朝市 in 沼之内開催！

12月13日（土）

いわき市漁業協同組合が豊間漁港（沼之内地区）にて朝市を開催しました。このイベントの目玉は、なんと「鮮魚の詰め放題」。同組合沼之内支所および四倉支所の底びき網漁船が水揚げした魚介類（ヒラメ、タチウオ、マダイ、ホウボウ等）を参加者自らが自由に選び、専用箱（1箱1,000円）のフタが閉まるまで詰め放題を楽しむことができます。多くの方がこの企画を目当てで来場し、開始時間の3時間前から並ぶ方もいました。

鮮魚詰め放題の他には、「ホッキガイ詰め放題」と「しらす干しのすくいとり」（いずれも専用容器への詰め放題）、「沼之内支所女性部による魚料理のふるまい・販売」（ふるまい：サンマのつみれ汁、販売：アンコウとメヒカリの唐揚げ）、子ども限定ホッキガイむき体験が行われました。どのブースも大盛況であり、来場者は500人を超える程でした。

（水産事務所）



▲鮮魚の詰め放題



▲子ども限定ホッキガイむき体験





食品表示あれこれ ⑨お米の表示～適切な商品選択のために～

近年のお米の価格の上昇とともに、様々な種類のお米が商品棚に並ぶようになりました。消費者目線で、適切な商品選択をするために役立つ、表示の見方をご紹介します。

●単一原料米（いわゆる銘柄米）の一括表示

名 称	精 米		
	産 地	品 種	産 年
原 料 玄 米	単一原料米		
	福島県産 福笑い 令和7年産 農産物検査証明による		
内 容 量	10kg		
精 米 時 期	令和7年12月上旬		
販 売 者	●●米穀 株式会社 福島県いわき市平字梅本 15 0246-●●-●●●●		

「単一原料米」とは  
産地、品種及び産年が同一で、その根拠を示す資料を保管している玄米を原料としているお米のこと。この場合、お米の包装に、産地、品種及び産年が明記されています。  
また、根拠となる情報の確認方法を表示している場合もあります（任意表示）。

「新米」とは  
一括表示欄外に「新米」の表示がされているのは、原料玄米が生産された年の **12月31日** までに容器包装された玄米、または、精白・容器包装された精米です。



その他の付加価値を有する商品  
有機栽培を行った作物には有機 JAS マーク（左）、化学肥料や農薬を一定以上削減して栽培した作物には特別栽培農産物のマーク（右）が付されます。いずれも、第三者機関の認証を受けたものです。



●複数原料米（いわゆるブレンド米や輸入米）の一括表示

複数種の原料玄米をブレンドしている場合は、「複数原料米」と表示し、様式に使用割合が追加されます。また、単一の原料米を使用している場合、その根拠資料がない場合も同様です。

単一原料米と比べて安価なものが多いですが、パッケージや表示欄などの表示内容を確認し、品質と価格に納得できる商品を選びましょう。

（1）国内産のブレンド米の場合

名 称	精 米			
	産 地	品 種	産 年	使用割合
原 料 玄 米	複数原料米			
	国内産 10割			
	〔福島県産 〇〇〇〕	令和7年度	6割	
	〔福島県産 ▲▲▲〕	令和7年度	4割	
(略)				

「複数原料米」とは  
単一原料米以外のもので、原料玄米の産地、品種若しくは産年が同一でない玄米を原料としているお米のこと。

表示事項について  
産地、品種及び産年（表示例の太字以外の部分）について、販売者はその根拠資料を保管している情報のみを表示することができます。  
その場合、表示例の太字部分の下に括弧書きで、お米の種類ごとの情報が表示されます。  
ちなみに、今年放出された備蓄米は、括弧書きなしで販売されることが多かったようです。

（2）輸入米の場合

名 称	精 米			
	産 地	品 種	産 年	使用割合
原 料 玄 米	複数原料米			
	米国産 10割			
	〔カリフォルニア州〕			10割
(略)				



（企画部）



## いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和7年11月分）

令和7年11月の農林畜産物モニタリングでは、8品目10検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムが基準値(100Bq/kg)を超えたものではありません。内訳は（表1）のとおりです。

また、令和7年11月の水産物モニタリング検査では、158検体の海産魚介類を検査し、すべての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

（表1）品目と検体数

ギンナン1、ユズ1、サツマイモ1、カキ1、菌床しいたけ（施設）1、大豆1、牛肉3、原乳1

## いわき地方の出荷制限等品目

令和7年11月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は（表2）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

（表2）農林畜水産物の出荷制限等品目（令和7年11月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※1、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ※2
自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※1 わらび（栽培）で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限ります。（市内該当生産者23名のみ）

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。

## 6次化商品の紹介

### 福島県いわき農林事務所

こだわりと美味しさが詰まった  
いわき自慢の6次化商品を紹介します！

観光いちご園のヘレナストロベリーランドでは、自社農園で栽培したいちごを使用したスイーツを楽しめます。

いちごそのものの美味しさを引き出すため、収穫した日に冷凍することで採れたての香りと甘さを閉じ込めた、朝採り完熟いちごのみを使用しています。そのいちごを加工して作った特製のいちごソースを使用したスイーツは、いちご本来の美味しさを楽しめる贅沢な一品となっております。

いちごソースの美味しさを引き立てるあっさりとした風味の生クリームを厚手の柔らかな生地で包んだストロベリーワッフルや、いちごの香り、甘さと牛乳のコクがストレートに味わえるいちごミルクなど、お子様から大人まで楽しめる味わいとなっております。

スイーツは、観光いちご園付近のキッチンカーにて土日祝日のみ販売しています。観光いちご園は年末年始休まず営業しているので、旬の時期のいちご狩りと、美味しいいちごスイーツをお楽しみください。

一番人気の  
ストロベリーワッフル

スイーツには、ゴロゴロの果実感  
といちご本来の香りと甘さを味わ  
える特製完熟いちごソースをふん  
だんに使用

12/27から  
販売開始  
予定!

土日祝にキッチンカーにて販売中!!

ストロベリーワッフル (1個) 650円 (税込)  
いちごミルク…………… (1杯) 650円 (税込)

ヘレナ  
ストロベリーランド  
Instagram  
はこちら!

販売  
店舗

ヘレナストロベリーランド  
(キッチンカーは土日祝のみ営業)

販売元・お問い合わせ  
ヘレナストロベリーランド  
福島県いわき市添野町頭巾平66-3  
0246-88-9181



## 第2回 高校生発！Iwaki ならではのグルメをつくろう レシピ紹介

地元農産物の魅力を発信するため、市内の高校生と飲食店等が共同でいわきならではのグルメを開発する、「高校生発！Iwaki ならではのグルメをつくろう」。

今回は応募のあった中から、「甘じょっぱいがくせになる ネギたっぷりの味噌蒸しパン」のレシピを紹介します！

ネギ部門  
おすすめ  
レシピ  
all about  
bakery

### 甘じょっぱいがくせになる ネギたっぷりの味噌蒸しパン

志田 結花さん  
福島県立いわき光洋高等学校 1年

調理時間：15分  
食材費(2人分相当)：340円

#### 材料

長ネギ	1本
コーン(水煮)	50g
みそ	大さじ1
卵	1個
牛乳	100ml
ホットケーキミックス	150g
ピザ用チーズ	適量

#### 作り方

- ① 長ネギは粗みじん切りにしておく。
- ② 熱したフライパンで①とコーンをほんのり焦げ目がつくまで炒め、粗熱を取っておく。
- ③ みそを少量の水(分量外)で溶く。
- ④ ボウルに卵と牛乳を入れ、よく混ぜる。
- ⑤ ②、③、ホットケーキミックスを加えてよく混ぜる。
- ⑥ 耐熱のカップに⑤を入れ、ピザ用チーズを乗せる。
- ⑦ 電子レンジ(600W)で3分半加熱する。
- ⑧ つまようじを刺して、生地がついてこなかったら完成。  
(ついてくる場合は、10秒ずつ様子を見ながら再度加熱する)

#### 作品のPRポイント

料理の彩りや引き立て役になってしまうネギを主役に変身させようと考え、今回のレシピを考案しました。蒸しパンなので、朝ごはんやおやつとして子どもから大人まで楽しんでほしいです。生産者さんの動画を拝見したところ、「加熱すると甘みが増す」とのことだったため、ネギを一度フライパンで炒め、甘みと香ばしさをプラスしたところがポイントです。また、味噌を少し入れ、やみつきになる甘じょっぱさを表現しました。ネギが主役になったこの蒸しパンを、ぜひたくさんの方に食べてみてほしいです。

福島県いわき農林事務所／高校生発！Iwaki ならではのグルメをつくろう 7

### 【レシピを参考に作ってみました】

リピート確定の美味しさでした。正直、ネギと蒸しパンの相性に不安を覚えていたのですが、甘みと食感がくせになる一品でした。ネギは少量ではなく、多めに入れることをおすすめします。

(担当 S.U)



レシピ集はこちら！



## 今月号に掲載した場所はこちら！

- ①福島さくら農業協同組合いわき長ネギ選果調製施設 (P3)  
平下片寄地内
- ②農事組合法人菊田の郷 助川農園 (P4)  
錦町馬場163
- ③永井川前線 (P6)  
三和町下永井～川前町川前
- ④瀬戸地区 (P7)  
瀬戸町十三石地内
- ⑤小川江筋源門 (P7)  
小川町上平字光平
- ⑥豊間漁港 (P9)  
平沼ノ内字浜街 (沼之内地区)
- ⑦ヘレナストロベリーランド (P10)  
添野町頭巾平66-3

### いわき市 MAP



## あとがき



### あとがき

2025年も残りわずかとなりました。年末年始に向けて慌ただしい時期ではありますが、1年を振り返りながら来年への準備も進めていきましょう。

今年は、天候や生産環境の変化に加え、需要の回復などが重なり、コメを取り巻く状況が大きく動いた1年となりました。国産への関心が高まった流れを前向きに捉え、水稻をはじめとしたいわき市農林水産業も、さらなる発展を目指していききたいですね。本年もありがとうございました。どうぞ良いお年をお迎えください。

(担当 S.U.)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース [検索](#)